

安保デモ：海外が注視…BBC「日本の若者は目覚めた」

毎日新聞 2015年08月31日



安保法案に反対して、国会周辺に集まった大勢の人たち＝東京都千代田区で2015年8月30日、望月亮一撮影

◇独TV「市民の反対増加」

BBCは「日本の若者は政治に無関心で無気力だと批判されるが、彼らは目覚め、沈黙することを拒否しているようだ」と報じた。デモ参加者へのインタビューを交えながら、「(安倍晋三首相が) この声を聞いているのかが問題だ」とも。英紙フィナンシャル・タイムズは、中国の領土的野心への懸念から法案が準備されたと伝え「安倍首相は軍国主義の過去から学んでおらず、中国も同じ道を歩む危険がある」とのデモ参加者の声を紹介した。

日本と同じ敗戦国で現在は北大西洋条約機構(NATO)の集団的自衛権に基づく作戦に参加しているドイツも関心を見せ、第1、第2公共テレビはそろって30日夜のメインニュースで取り上げた。安保関連法案を「戦後初めて自衛隊を海外での戦闘に参加させる法案」と解説し、「平和主義からの決別に市民が反対している」「安倍首相は9月中の法案

成立を願っているが、逆に市民の反対は増えている」と伝えた。米CNNや通信社も「ここ数年で最も大きなデモの一つだ」（ロイター通信）などと報じた。

中国では、国営新華社通信が「『安倍首相は辞任しろ』などのスローガンが国会の上空に響き渡った」などと報道。国営中国中央テレビも夕方7時の定時ニュースで取り上げた。

また、韓国の京郷新聞（電子版）は「日本の誇る坂本も怒った」と、音楽家の坂本龍一さんが国会前でマイクを握ったことを伝えた。



安保関連法案反対の声を上げながらデモ行進する人たち＝札幌市中央区で29日、武市孝撮影

安保デモ：著名人も次々国会前へ

毎日新聞 2015年08月31日

安全保障関連法案に反対する大規模集会が開かれた国会周辺には30日、著名人が次々と訪れた。参加した作家、高橋源一郎さんは取材に「こういう行動はすてきだ」と話した。

国会前に設けられたステージには映画監督の園子温（その・しおん）さんが登壇し「今日は（若者グループの）『SEALDs（シールドズ）』の応援団として来た。こんなに集まってすごいと思う」とあいさつ。作家の森村誠一さんは「戦争が始まったら、女性の人権が破壊される」と危機感を表明した。

国会前の人だかりに紛れ、「安倍はやめろ」などのコールに声を合わせていた作家の高橋さんは「こういう行動ができるのはすごくすてきなこと」と語った。

ツイッターでは、作家の平野啓一郎さんが「国会前にいた。とてつもない数の人。法案は廃案にすべし」とつぶやいた。(共同)

国会前デモ、写真で振り返る 各地で安保法案の抗議集会

朝日新聞 2015年8月31日



安保関連法案に反対し、国会前の通りを埋め尽くす人たち＝30日午後1時57分、東京都千代田区、西畑志朗撮影

参院で審議が進む安全保障関連法案に反対する抗議集会が30日、各地で行われた。東京・国会前では、主催者発表で約12万人が車道や歩道を埋め尽くした。多くの人たちが、自らの声で法案反対の声を上げた国会前での1日をカメラで追った。

「廃案、ハイアン」、世代超えNOの波 国会前に集結

西本秀 北野隆一 伊木緑
朝日新聞 2015年8月30日



国会前でスピーチをする坂本龍一さん＝30日午後3時12分、東京・永田町、杉本康弘撮影

8月最後の日曜日となった30日、安全保障関連法案に反対する人々が国会前に集まった。大学生、1960年安保の運動家、戦争体験者――。世代を超えた人の波は主催者発表で12万人となり、国会議事堂前や周辺を取り囲んだ。抗議のうねりは全国各地にも広がった。

午後2時すぎ、国会議事堂の正門前。「戦争NO!」「9条壊すな」などと記された、赤や青、黄色のプラカードを手にした市民で、東西に延びる幅50メートル近い車道が埋め尽くされた。

拡声機から流れる「戦争法案いますぐ廃案」のかけ声に合わせ、「ハイアン・ハイアン」と声をあげる。

車道全体を覆うほどの人々が集まったのは、安保法案に反対する市民の抗議行動のなかで初めて。警察側も、主催者側も、原則的には歩道に沿って集まることを前提にしていたが、「どんどん人々がやって来て、自然発生的に歩道からあふれていった」(実行委事務局)。

当時の岸信介首相が退陣した60年安保闘争の際には、約30万人とされるデモ隊が集まり、大学生の樺(かんば)美智子さんが圧死する事件が起きた。今回、主催者側は「万が一の事故が起きないように、状況に応じて車道を開放してほしい」と事前に警察側に求めている。

この日の国会周辺の人出を約3万3千人とする警察側は、開始前の段階で人々を車道に誘導し始めた。警視庁関係者は「想定していたより人出が多かった。押し合って倒れるなどけがをしないよう、現場の判断で歩道と車道を隔てていた柵を外した」と語る。

正門前の車道に加えて、国会をぐるりと囲む約1・3キロの歩道や、周辺の地下鉄駅の通路まで人波は延びた。流れを規制するバリケードの前で「ア・ケ・ロ」「ア・ケ・ロ」と声をあげる人々や、正門前にたどり着けず、「議事堂も目にできないなんて」と嘆く男性も。朝に思い立って名古屋市から駆けつけた大学教員の女性(36)は「これだけ集まったの

は、国民の関心のあらわれ」と語った。

警視庁は30日、抗議行動に参加した60代の男2人が機動隊員をたたきなどしたとして、公務執行妨害容疑で現行犯逮捕した。麴町署によると、機動隊員の頭を平手でたたいたり、肩を押したりした疑いがある。隊員にけがはなかった。(西本秀)

■「70年間、ずっと声上げてきた人たちがいた」

音楽家の坂本龍一さんも国会前に駆けつけた。中咽頭(いんとう)がん治療のための休養から復帰したばかり。「現状に絶望していたが、若者たち、主に女性が発言するのを見て、希望があると思った」と声を振り絞った。

「民主主義や憲法が壊される崖っぷちになって、日本人に主権者や憲法の本心が根づいていないと示された。日本の歴史のなかでは、憲法は自分たちの命をかけて闘い続けたものではなかったかもしれないが、今まさにそれをやろうとしている。ぼくも一緒に行動していきます」と話し、学生団体「SEALDs」の奥田愛基さんと握手した。

坂本さんからSEALDs ツイッターに参加を申し出るメッセージが届き、登壇が実現したという。(北野隆一)

「民主主義って何だ?」「これだ!」。学生団体「SEALDs (シールズ)」の若者による速いテンポのかけ声に、白髪交じりの参加者らも拳を突き上げて応じる。そんな光景を、「戦争させない・9条壊すな! 総がかり行動実行委員会」の高田健さん(70)がステージ脇で見守っていた。高校生の時に60年安保闘争に参加して以来、平和運動を続けて半世紀になる。

毎週木曜、議員会館前で安保法案への抗議集会を続けている。参加者は中高年が中心。労組ののぼりが立ち並ぶ伝統的な市民運動だ。野党の国会議員や弁護士も参加し、最近は何週数千人が集まるという。

一方でこの夏、注目を集めたのはSEALDsだった。SNSでつながった若者の「カッコいい運動」はメディアで取り上げられ、回数を重ねるごとに参加者を増やした。

「あの時と似ている」。高田さんは2003年、イラク戦争に反対する若者グループが登場した時を思い出した。仮装し、音楽に合わせて練り歩くパレード、インターネットを通じた参加の呼びかけ。初めて見るものばかりで驚いた。

「パレードなんか平和運動じゃない」「目立ちたいだけだ」。長年一緒に活動してきた仲間たちは眉をひそめた。だが、高田さんは「人は新しいものに飛びつく。運動を広げるチャンスだ」と歓迎。連携して活動するための団体をつくり、実行委員に就いた。

イラク反戦運動が収束した後も、反原発や特定秘密保護法反対など世論が盛り上がるたびに若者の運動が生まれ、脚光を浴びた。そんな若者への嫉妬を隠さない仲間は今もいる。気持ちは分かるが、こう論ずる。「彼らのような人たちに出てきてほしくて、僕らは今までがんばってきたんでしょ?」

「敷布団と掛け布団」。中野晃一・上智大教授が最近、集会でこんな例え話をしてくれた。若者らの新しい運動が掛け布団。長年続く運動が敷布団。多くが政治への不満を募らせる「寒い時代」にはふかふかの掛け布団が重ねられる。それは喜ばしいこと。でも地味で誰も気に留めなくても、敷布団がなければ体が痛くて眠れない——。高田さんらへの敬意を表した言葉だ。

「敷布団は敷布団らしい働きをしよう」。反原発や沖縄問題に取り組む団体、法律家や学者、母親世代の「ママの会」……。別々に活動する市民団体を束ね、今回の主催・賛同団体は約30に上った。

60年安保闘争以降、平和運動は党派やほんの少しの思想の違いで対立しがちで、共に活動するのが難しいこともあった。「本気で法案成立を止めるには一緒にやるのが大事だ」という思いを共有できたのだろう」と喜ぶ。

抗議行動が終わった後、SEALDsの中心メンバー、奥田愛基さん(23)は話した。「日本が70年間、一人も戦死しなかったのはずっと声を上げてきた人たちがいたからなんだなと今日思った。それって本当にすごいことだと思う」(伊木緑)







安保法案反対、最大デモ 国会周辺に集結 全国各地でも抗議

朝日新聞 2015年8月31日

参院で審議中の安全保障関連法案に反対する市民による抗議行動が30日、東京・永田町の国会議事堂前や周辺を埋めた。主催者発表によると、参加者は12万人で、安保法案をめぐる抗議行動では最大。参加者が歩道からあふれて、警察側が車道を開放した。市民らは車道に広がり、雨の中、「戦争法案廃案」「安倍政権退陣」と叫び続けた。

霞が関や日比谷周辺まで人であふれた。警察関係者によると、国会周辺だけで参加者は約3万3千人。

主催したのは、平和運動を続けてきた市民らでつくる「戦争させない・9条壊すな！ 総

がかり行動実行委員会」。5月に立ち上がった都内の大学生らがつくる「SEALDs（シールズ）」のほか、大学教授や研究者らの「学者の会」、子育て世代の「安保関連法案に反対するママの会」など、この夏に出来た団体が加わった。各地から大型バスを仕立てて参加した人たちもいた。

民主、共産、社民、生活の野党党首や、音楽家の坂本龍一氏もスピーチに立った。SEALDsの中心メンバーで明治学院大の奥田愛基さん（23）は「国会前の車道を埋め尽くして人々が声を出している。怒りであり、叫びです。憲法を守った方がいいっておかしな主張ですか」と声を上げた。

抗議やデモは北海道、名古屋、大阪、福岡、沖縄など全国で行われ、主催者の集計によれば、少なくとも全国約350カ所に及んだ。

安倍政権は9月27日までの今国会会期中に法案を成立させる考え。11日までの成立をめざすが、ずれこむ可能性もある。

（市川美亜子）

12万人 怒りの包囲

戦争法案ノー 全国1000カ所超

しんぶん赤旗 2015年8月31日(月)

違憲立法・戦争法案の廃案と安倍政権の退陣を迫る「国会10万人・全国100万人大行動」が30日におこなわれました。北海道から沖縄まで列島津々浦々に戦争法案と安倍政権への怒りのコールがとどろきました。国会大行動を呼びかけた総がかり行動実行委員会が「12万人の参加で成功した。全国1000カ所以上で数十万の人がいっせいに行動に立ち上がった」と紹介すると、「オー」と大歓声があがりました。戦争法案に反対する最大の全国行動になりました。主催者は9月8日からの大宣伝、国会集会、座り込みの連続行動を提起し、「安倍政権を倒すまで必ずやりぬこう」と訴えました。



(写真)国会を取り囲み、戦争法案廃案、安倍首相退陣を求めてコールする人たち=30日、国会正門前

午後1時45分、国会正門前は、「ウォー」という歓声と拍手とともに、あふれた参加者で歩道も車道も完全に埋め尽くされました。身動きできない人の波です。子どもを抱いたママ、キャリーバッグを引いた若い男性、プラカードを持って初めて国会に来た学生...。「安倍やめろ!」と書いた特大の垂れ幕つき風船もありました。国会にむけ老若男女、全世代が心ひとつに「戦争法案いますぐ廃案」「安倍政権は今すぐ退陣」と怒濤(どとう)のコールを響かせました。



(写真)国会正門前であいさつし、そろって激励
にこたえる4野党党首=30日

国会正門前に特設されたメインステージでは、国会論戦と国民の圧倒的運動で参院段階で廃案めざそうと野党4党首がそろいました。

日本共産党の志位和夫委員長はじめ民主党の岡田克也代表、社民党の吉田忠智党首、生活の党の小沢一郎代表がマイクを握り、スピーチしました。ともに手を握りあい、参加者と一緒にコールしました。

作家の森村誠一さん、学者の袖井林二郎さん、憲法学者の浦田一郎さんらが次々にスピーチ。音楽家の坂本龍一さんは「これを一過性にせず、行動を続けてほしい。僕もみなさんと一緒に行動します」と語ると、大きな拍手がおきました。

シールズ関西の寺田ともかさんは「主権者の声を安倍さんは聞こえますか。この国の進むべき道に責任をもっている一人として、この法案を許すことは絶対にできません」と訴え、「安倍はやめろ、戦争反対」とコールしました。

日比谷公園霞門前のメインステージで、アニメーション監督の宇井孝司さんは、アニメの語源が「アニマ（命）」であるとし、「今、命をないがしろにして脅かそうとする力が働いている。平和憲法が殺されようとしている。何としても止めたい」と訴えました。

東京都板橋区から参加した女性（44）は「安倍首相はこの12万人の声を聞くべきです。きっと、この場所に来たくても来れない人がいる。その人のためにも行動に参加し続けたい」と語りました。

「国会10万人・全国100万人大行動」

志位委員長のスピーチ

2015年8月31日(月)

日本共産党の志位和夫委員長が30日の「国会10万人大行動」で行ったスピーチは次の通りです。



(写真)あいさつする志位和夫委員長=30日、国会正門前

ボロボロになった戦争法案は廃案しかない

みなさん、こんにちは（「こんにちは」の声）。日本共産党の志位和夫です。（大きな拍手）

参議院で戦争法案の審議が始まって1カ月。審議が進めば進むほど、安倍政権は行き詰まり、まともな答弁ができなくなっています（「そうだ！」の声）。追い詰められるなかで、すでに参院安保特別委員会の審議は77回も中断し、審議途中で散会という事態も起こっています。ここまでボロボロになった法案は、廃案にするしかないではありませんか。（大きな拍手）

集団的自衛権——「具体

例」はどれもうそデタラメ

第一に、政府は、戦争法案の根幹部分について、整合的な答弁ができなくなっています。

安倍首相は、集団的自衛権行使の「具体例」として、パネルまで持ち出して「日本人を輸送する米艦の防護」なるものを言い募りました。しかし、先日の質疑で中谷防衛大臣は、日本人が乗っていないにもかかわらず集団的自衛権行使はありうると答弁しました。

あれだけ繰り返した「ホルムズ海峡の機雷掃海」についても、当のイラン政府が「封鎖などありえない」と否定するなかで、言えなくなりました。（「そうだ！」の声）

なぜ集団的自衛権行使が必要なのか。その「具体例」としたものがどれももうそデタラメだったということになるではありませんか。うそデタラメの「具体例」しかあげられないということはどういうことか。政府の裁量で何でもできるということですか。海外で戦争をするかどうかの判断を政府に白紙委任する——こんな恐ろしい法案を断じて許すわけにはいきません。（大きな拍手）

米軍への軍事支援——非人道兵器も大量破壊兵器も何でも運べる

第二に、戦争法案が、自衛隊の軍事行動について「歯止め」を持たないことが、さまざまな分野で明らかになってきたことです。

たとえば参院の審議で、米軍への軍事支援のさいに、自衛隊がどんなものを運ぶことができるのかが衝撃的に明らかになりました。クラスター爆弾、劣化ウラン弾、毒ガス兵器、はては核兵器——非人道兵器も、大量破壊兵器も、法律の上では何でも運べる。そこには何の「歯止め」もありません。憲法9条のもとで、こんなことが許されないのは明らかではありませんか。（「そうだ！」の声、大きな拍手）

自衛隊の暴走——「問題ない」という首相は辞めてもらうしかない

第三に、自衛隊統幕監部が、戦争法案の成立を前提に、さまざまな項目について極秘に検討を行っていたという大問題が明らかになりました。

内部文書を見ると、「軍軍間の調整所の設置」、「南スーダンPKOへの『駆け付け警護』等の業務拡大」、「南シナ海における警戒監視などへの関与」など、国会に一度も説明されたことのないことがずらりと並んでいます。それを5月26日、衆院で国会審議が始まったその日に、350人もの幹部自衛官を集めて詳細に説明していた。これを「軍の暴走」と言わずして何というのか。（「そうだ！」の声）

戦前は天皇の「大権」——統帥権の独立の名のもとに軍部が暴走しましたが、いまは米軍の「大権」——米軍の指揮下で自衛隊が暴走している。この暴走を「問題ない」という中谷防衛大臣、そして安倍首相は、そろって辞めてもらう以外にないではありませんか。（「そうだ！」の声、指笛、大きな拍手）

ここが正念場——国民の力で絶対に止めよう

残る国会会期は4週間。ここが正念場です。絶対に止めようではありませんか。日本列島津々浦々で国民の世論と運動を広げに広げ、その力で安倍政権を羽交い締めにし、参議院で採決させない、衆議院での再議決もさせない、戦争法案を必ず廃案に追い込み、安倍政権を打倒するために、みんなで力を合わせようではありませんか。（「おー」の声、大きな拍手）